

活動報告レポート	アスクール 東日本産業復興支援
報告日	2012年8月10日
報告者	公益社団法人 シビックフォース

気仙沼市唐桑町舞根地区における産業復興の支援

宮城県気仙沼市唐桑町の舞根地区は、森と海と川の環境を一体として捉え、森に木を植えて森づくりをすることによって豊かな海を取り戻す「森は海の恋人」運動で全国的に知られています。また、周辺をリアス式海岸で囲まれ、三陸のカキ・ホタテ養殖の一大拠点でもあり、地域の中心的な産業となっています。

しかし、東日本大震災によって、それまで湾の一面に広がっていたカキやホタテの養殖施設は全て破壊され流出しました。そこで、アスクールは公益社団法人 Civic Force を通じて地域の産業復興のための支援を実施しています。

■ 水産業への支援

舞根地区は震災後いち早く養殖業の復旧・復興に向けた取り組みを開始しました。昨年5月には流出したカキの養殖いかだの組立作業を開始し、本格的に養殖作業を開始しました。その際にはアスクールから提供されたユニック車（クレーン付作業車）を活用して木材を搬出して養殖イカダの組立を行いました。その結果、被災地の中でも最も早く今年2月から牡蠣の出荷を再開し、今では地域住民が一体となって牡蠣や帆立を順次出荷しています。

一方で、舞根湾における養殖の規模はいまだ震災前の6割程度に過ぎず、まだ本格復旧には更に数年はかかる状況です。そのため、アスクールを通じて集められた支援金は、設備面では被災した港湾周辺の移動に使用する車両（軽トラック・原付バイク）の提供に役立てられています。加えて、ソフト面での支援として、昨年から実施している水質調査に対する支援を引き続き継続し、森林から河口付近、海域に至る各地点で土壌や水を採取して、自然の回復状況や有害物質の有無を調査しています。



■ 新産業への支援

舞根地区では従前からの水産業の復旧に留まらず、地元の若手を中心に新しい産業を興すための動きも始まっています。

牡蠣や帆立などの水産物を燻製にする等、加工することによって付加価値を付けた特産品を開発することも予定しています。このような復興のための新しい地元主体の新しい産業も支援していきます。

【その他の現地の取り組み】

「森は海の恋人」運動の発祥地でもある舞根地区は自然環境保全や環境教育の拠点として全国的に知られており、現在計画されている三陸復興国立公園のビジョンの中でも「森は海の恋人」が謳う森・里・海のつながりを重視した公園の整備が行われる方針となっています。このような舞根地区の特徴を活かしながら、今後観光メニューの開発等を進めていく方針です。

具体的には、漁業・養殖などの体験や植樹などの環境保全体験などを通して自然と触れ合うプログラムの開発などを予定しています。

